

平成 23 年 8 月 25 日
石油資源開発株式会社

東日本大震災被災地区での当社従業員ボランティア活動（第三回目）について

当社は、従業員による東日本大震災被災地域での復興支援ボランティア活動に対し、積極的な支援を行っており、このたびその第三回目の復興支援ボランティア活動を実施致しましたのでお知らせします。

記

1. ボランティア活動概要：

- (1).実施日：平成 23 年 8 月 22 日（8 月 21 日東京発～8 月 23 日東京着）
- (2).場所：宮城県本吉郡南三陸町
- (3).参加者：当社、当社グループ会社の従業員およびその家族
36 名（男 26 名、女 10 名）
- (4).活動内容：南三陸町ボランティアセンターの指導の下、次の作業を実施。
・公立志津川病院 1 階での土砂かき出しおよび瓦礫等撤去作業

2. 今後の予定：

南三陸町でのボランティア活動（作業は月曜日に実施）
4 回目 8 月 28 日（日）～8 月 30 日（火） 約 60 名予定（本社および長岡）

<ご参考>

参加者の声（別紙）

以 上

参加者の声 ～ボランティア活動に参加して～ III



南三陸町災害ボランティアセンターにて

* 今回の作業現場である志津川病院では、諸事情により写真撮影が禁止となっていますので、作業の様子は「参加者の声」によりお伝えしています。

4 階まで津波が押し寄せた公立志津川町病院の 1 階中央入り口の献花台に、全員で手を合わせてから、いくつかの班に分かれて作業を開始しました。私自身は日ごろの運動不足がたまって醜態をさらしましたが、JAPEX ボランティア部隊全体としては皆、実に力強く頼もしく、作業に取り組んでいました。帰りのバスの中で、「自分は一生、ボランティア活動なんてものには縁がないものと思っていたんだけど、今回会社がここまでやってくれるって言うので、千載一遇のチャンスだと思って申し込んだ。来てよかった。」との某氏の言葉が印象的でした。(役員:60 歳)

今回、第 3 回目ボランティアに参加した 36 人は公立志津川病院の 1 階で泥のかき出し、埋もれていたゴミの撤去作業を行いました。泥をかき出す作業はかなりの重労働でしたが、皆で協力して 1 日の作業をやり終えました。泥で埋もれた医療器具やレントゲン写真を見ると、改めて津波の恐ろしさを感じ、復興作業が短期間で終わるものではないと実感させられました。しかし、1 人でも地道な活動を行えば、前に進めるかと思えます。1 日も早い復興を願うと共に息の長い支援を会社でも個人でもしていきたいです。(女性社員:36 歳)

参加者全員で志津川病院の土砂・瓦礫等の撤去作業を行いました。津波によって流された土砂やガラス、紙ゴミの分別撤去は想像以上に力のいる作業でしたが、思いの外撤去が進んでおり、毎日作業を行なっている方々の協力の成果を感じました。東北へボランティアに行きたいと思いつつも、個人ではなかなか機会と決意が得られず、父の会社のボランティア企画は非常にありがたいものでした。友人にもこの体験を話し、積極的に支援活動呼びかけたいと思います。(社員家族(女性):22 歳)

当日、雨天(時折激しい雨)により、ボランティアセンターでは活動を中止にするか否か揺れている中、当社参加者の熱意により実施することになりました。



ボランティアセンター前で実施決定を待つ参加者